

令和6年度

「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」
及び「学校関係者評価報告書」

大阪市立北中道幼稚園

令和7年3月

大阪市立北中道幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- ・南海トラフ地震緊急臨時情報（巨大地震注意）が発表されたことで、発災時に命を守るための行動が行えるよう、地震に対する避難訓練を昨年度より回数を増やして行った。教職員も時間を知らずに行う避難訓練を経験することで、様々な場面を想定をしながら園児の安全確保について考える機会となった。保護者に対して家庭での防災や備蓄品についてのアンケートを行ったり、大阪市 HP より備蓄品や非常持ち出し品のチェックリストを添付したりしたことで、保護者の意識を高めることにつながった。今後も発災が起こった際に、園児や自身の生命を守ることができるように、防災の知識や対応できるスキルを身につけられるような避難訓練の在り方や保護者への啓発について工夫をしていく。
- ・一年を通して異年齢児の関わりを深められるように、年間計画を立案し、『わくわくたいむ（異年齢交流 名称）』を行った。様々な活動を全学年で行うことで、互いに親しみや思いやりの気持ちが育まれている。今後も小規模園の強みとして異年齢活動を計画的に行い、園全体で教育活動が進めていくことができるような内容を考え、実践していくことができるようにする。
- ・遊びを通した子どもたちの育ちについて『就学前教育カリキュラム』を活用し、保育案の作成やドキュメンテーションの作成の際、子どもたちの育ちについて『知・徳・体』の側面から発信を行った。また、幼小連携・接続の重要性を意識し、入学後の1年生の様子を見学したり、1年生の国語科の研究授業に教員が参加したりしたことで、小学校での学びが園生活の遊びの中で培われることと共通する点がたくさんあることを学んだ。今後も積極的に小学校に働きかけ、教員同士の学び合いや、幼児と児童の交流を含めた幼小連携・接続が行えるようにする。引き続き保護者に分かりやすく教育活動の内容や子どもたちの育ちを知らせていくことができるように、『就学前教育カリキュラム』を、活用していく。
- ・発達段階に応じて毎月保健指導を行った。絵本やパワーポイント教材、手作りの教材を用いることで、子どもたちが興味をもち、内容を理解することができた。外国につながりをもつ子どもにも分かりやすい視覚教材があることで、楽しんで保健指導を受ける様子が見られた。今後も指導する内容や時期などを担任と連携を図って行っていく。
- ・『第63回全日本歯科保健優良校表彰』に応募した結果、歯科保健の取り組みが優良と判断され、優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞した。受賞を受けて、子どもたちの歯みがきへの意欲や歯を大切にしようとする意識がさらに高まっている様子が見られた。引き続き、子どもの実態と照らし合わせた保健指導の工夫・実践と共に、教職員間の連携を図り、家庭啓発を工夫していく。
- ・年間計画に基づき、園内研修を行うことで教員の資質向上に努めた。幼児の発達段階の育ちや教材についてなどについて学ぶことができた。来年度、自園での造形研修を行うにあたり、更に教員の資質向上を目指し、主体的に尚且つ計画的に外部の研修を受講したり、園内での研修や教材研究などを行ったりしていく。
- ・昨年度から継続し、各学年が学期ごとに高齢者施設に訪問する機会をいただいた。高齢者の方々との交流を通して喜びや思いやりの気持ちを高めることができた。引き続き、継続していく。
- ・地域の方々による読み聞かせ、『絵本の会ピーターラビット』の方に定期的に来ていただくことで、絵本の楽しさや、地域の方との交流を育む機会となった。今後も連携、継続をしていきたい。
- ・幼児の実態を見ながら、保健指導のあり方、環境について工夫すると共に、外部講師を招聘し、保護者向けの教育情報発信についても検討していきたい。

中期目標

【安全な・安心な教育の推進】

- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を90%以上にする。
- 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、令和7年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように分かりやすく伝えていきますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を85%以上にする。
- 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、今年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 今年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を85%以上にする。
- 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

- ・今年、南海トラフ地震緊急臨時情報（巨大地震注意）が発表され、地震に対する避難訓練も昨年度より回数を増やして行った。幼稚園・保護者合同訓練を9月と1月に実施した。1月の引き取り訓練では保護者の方にも時間を知らせず、園児が避難を行ってからのメール配信にて引き取りとした。非常事態が起こった際に、幼稚園と家庭との間で危険な箇所についても意識してもらえるよう働きかけた。家庭での防災や備蓄についてもアンケートを取り、結果と共に大阪市 HP より備蓄品や非常持ち出し品のチェックリストを添付した。今後も発災が起こった際に、園児や自身の生命を守ることができるように、防災の知識や対応できるスキルを身につけられるようにする。
- ・一年を通して異年齢児の関わりを深められるように、計画的に『わくわくたいむ』を行った。体操や製作活動、運動会でのパラバルーン競技など様々な活動を全学年で行うことで、互いに親しみを感じたり、3歳児、4歳児は5歳児に憧れの気持ちをもったりすることで、思いやりの気持ちが育まれている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・幼小連携・接続の重要性を意識し、入学後の1年生の様子を見学したり、1年生の国語科の研究授業に教員が参加したりしたことで、小学校での学びが園生活の遊びの中で培われることと共通する点がたくさんあることを学んだ。また、『主体的・対話的・深い学び』が、どのようなものであったか、討議会に参加したことで小学校教育の学びを知る大変よい機会となり、就学を意識した保育内容を見直すきっかけとなった。
- ・保護者が子どもの育ちについて理解を深めることができるように、分かりやすくといった点を意識しながら園長室だより、クラスだより、アンケート結果などを作成した。また、日々の降園時、月末の保育室降園などの機会を活用し、遊びの中で学んでいる姿を伝えたり、紹介したりするなどしてきた。今後も保護者に分かりやすく教育活動の内容や子どもの育ちを知らせていく。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・年間計画に基づき、園内研修を行うことで教員の資質向上に努めた。第2ブロックの研究部の主題をもとに、自分の思いを表現する楽しさを表すために、つくったりかいたりする機会をどのように捉えていくのか学んだ。今後も、幼児の発達段階や素材研究などについて学んでいく。
- ・昨年度から継続し、各学年が学期ごとに高齢者施設に訪問する機会をいただいた。高齢者の方々との交流を通して喜びや思いやりの気持ちを高めることができた。今後も継続していく。
- ・地域の方々による読み聞かせ、『絵本の会ピーターラビット』の方に定期的に来ていただき、絵本の楽しさや、地域の方との交流を育む機会となっている。

大阪市立北中道幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を85%以上にする。 ○ 子どもが安心して園生活が送れるよう教職員で共通理解を図り、日々の保育活動に生かし、今年度の本園保護者アンケート調査で「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で、「子どもは教師や友達との関わりを楽しめていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】 非常災害発生時に子どもも保護者も教職員も自らの命を守る行動をとれるように、事前・事後を重要視しながら避難訓練を実施する。 指標 年10回以上、避難訓練を行い、その内、園児引き渡し訓練を年に2回実施する。	B
取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】 子どもの実態を捉え、教職員間で連携を図りながら、異年齢で関わる時間（わくわくたいむ）や環境を意識した保育内容を工夫する。 指標 年間計画を立て、学期に5回以上、異年齢で関わる機会をもつ。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
○ 「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」・・・100% ○ 「子どもは、幼稚園に行くことを喜んでいますか」・・・97% ○ 「子どもは教師や友達との関わりを楽しめていますか」・・・100% 【取組内容①】について 4月…火災（非常ベルの音を知らせる、3歳児は4・5歳児の様子を見る） 5月…火災 6月…地震 7月…火災 9月…地震・津波（第1回園児引き取り訓練） 10月…地震（抜き打ち） 11月…火災（消防車） 12月…防犯 1月…地震・津波（第2回園児引き取り訓練） 2月…火災（抜き打ち） 3月…地震（抜き打ち）実施予定 入園・進級して間もない4月は非常ベルの音を知らせ、ベルが鳴った時は、何か危険なことが園内で起きているということや、音を聞いたらしやべらず教師のそばに集まるということを知らせた。特に3歳児は初めての訓練のため、避難方法が分かるように4・5歳児の避難の様子を見せた。5月には、初めて3歳児も一緒に避難した。大阪消防振興協会の消防訓練サポーターの方に来ていただき、園児が避難している様子を見ていただいたり、	

職員が消火訓練をする様子を子どもたちに見せたりした。

6月の地震訓練では、正月に起きた能登半島地震についても知らせながら、防災頭巾の扱い方や頭を隠して守ることの大切さを伝えた。また視覚物を使いながら『おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない』の『お・は・し・も』の約束を知らせた。7月は、火災時に煙を吸わないように腰をかがめて低い姿勢で逃げることを知らせた。初めは、ベルの音に驚き、慌ててしまう姿や、ポケットにハンカチが入っておらず煙を吸ってしまう恐れのある子どももいたが、教師の声掛けや、訓練の回数を重ねたことで、放送をしっかりと聞こうとしたり、避難方法を再確認しながら逃げようとしたりする姿が見られるようになってきている。

9月、第1回園児引き取り訓練では、保護者に一斉メール配信で知らせ、実際に発災が起こったことを想定しながら、保護者引き取りカードの確認と園児の引き渡しを行った。

また、その後のアンケート結果では、防災意識を高めることができた75%、備蓄をしているか85%（1学期は64%）と意識が高まっている様子が見えてくる。8月8日に南海トラフ地震緊急臨時情報（巨大地震注意）が発表されたこともパーセンテージが上がった要因と思われる。アンケート結果を保護者に知らせる時に、大阪市HPより備蓄品や非常持ち出し品のチェックリストを添付した。引き続き啓発していく。

10月には、教職員の抜き打ち避難訓練（地震）を行った。その際、トイレに行っている子どももおり、状況に応じた教職員間の連携に課題が見られた。今後、連携の見直しを図り、緊急時における対応を共通理解するよう努めた。

11月には、消防士の方が来てくださり、実際に消防車を見学しながら説明を受け、様々な設備がついていることを知り、消火や救助方法の意識も高まった。

12月には、不審者が侵入した想定で防犯の避難訓練を行った。職員間で暗号を決め、静かに避難することができた。内側からカギがかかり、外へ避難する経路（窓）がある部屋に避難することも共通理解した。

1月には、地震の避難時の行動やポーズを動物に見立てた『どうぶつポーズであそぼうサイ』の絵本の読み聞かせをしたことで、子どもたちのイメージが広がり、身の守り方を意識する姿につながった。今後も、意識付けできるように遊びの中でも取り入れいく。また、今年は阪神淡路大震災から30年目を迎え、同日に避難訓練を行った。その際、当時の写真を掲示し震災を振り返った。同時に行った第2回引き取り訓練時、保護者にも絵本の内容を知らせた。実際に防災リュックをもって参加してくださった保護者の方や30分近くかけて自宅から徒歩で参加してくださった保護者の方もいて、保護者の防災意識も高まってきている。引き取り訓練のアンケート結果でも防災意識を高めることができた92%（2学期75%）、備蓄をしているか88%（2学期85%）と2学期より更に意識が高まっている様子が伺える。

2月は、抜き打ちで火災の避難訓練を実施した。3月は、抜き打ちで地震の避難訓練を実施する予定である。

教職員が緊急時における対応を共通理解するよう努め、積極的に防災の研修を受けるようにしたことで、教職員の意識も高まってきた。

【取組内容②】について

当初から異年齢で関わりながら遊ぶことができるよう環境の工夫をしたり、集会や体操、ふれあい遊びを積極的に取り入れたりする等、全学年で関わりをもつ機会を設けてきた。また、年間計画に基づいて、いろいろな友達との関わり、異年齢の友達に興味を持ったり憧れたりすることができるよう週1回『わくわくたいむ』を設けた。

年度当初には、5歳児が3歳児の身支度の手伝いを継続して行った。4歳児は、5歳児

と一緒に遊んだり、遠足に行く際にはペアになって行動したりしてきた。

また、昨年度の経験から5歳児から『わくわくたいむをしたい』と提案があり、教職員間で連携を図りながら、リズム室でピアノに合わせて動いたり、ふれあい遊びをしたり、玉入れ遊びをしたりして体を動かして遊ぶ機会を設けた。7月の笹飾りを作る際には、全学年のクラスを混合にしたチームに分かれ、5歳児が3・4歳児に教えながら笹飾りの作り方を教える機会をつくった。

3歳児は、好きな遊びの時間に4・5歳児の真似をしたり、日頃の関わりがあったことで親しみをもったりしながら安心して、園生活を送ることができた。4歳児は、5歳児と一緒に遊ぶことを楽しんだり、製作活動をしたりし、5歳児に認めてもらったことで自信につながり、憧れの気持ちを抱くようになった。5歳児は3・4歳児への関わりの中で、初めは戸惑うこともあったが、優しく関わろうとしたり、気持ちに寄り添いながら関わろうとしたり、5歳児として自信につながった。また、保護者からは、異年齢の関わりがあったことで、5歳児に教えてもらった製作を、家に帰ってから同じようにつくってみたり、家庭でも異年齢の友達の名前が聞くことがあったり、異年齢での関わりの中で育っている姿がたくさんあるということを感じたという声が聞かれた。

取組の結果から、『わくわくたいむ』の時間を意図的に設けたり、日頃の関わりが基盤にあったりすることで、自然と関わる幼児の姿が見られるようになった。

2学期に入り、5歳児から「3・4歳児と一緒にパラバルーンをして遊びたい」と提案があり、週に1回以上異年齢で一緒に体を動かして遊ぶ時間を設けた。暑さが厳しかったこともあり、リズム室を活用し、パラバルーン以外にも運動会に向けての遊びの中で一緒に体操をしたり、かけっこをしたりと、体を動かす遊びを通して、異年齢活動の時間を楽しめるように教職員間で環境の再構築、保育内容の見直しを行ってきた。

3・4歳児はパラバルーンの持ち方や技を5歳児に教えてもらったり、遊びを提案してもらったりしたことで、5歳児に対して憧れの気持ちをもち、より5歳児になることへの期待が高まった。

5歳児は、3・4歳児に教えることで、自分の思いや考えを『伝える』、『伝わる』ことの喜び味わっている様子が表情からも伺えた。5歳児にとって異年齢の関わりは、自己有用感を高める一つの要因となったことが伺える。また、実体験や遊びを通して学ぶことが語彙力を高めることにもつながっていることが見て取れる。その後、5歳児として遊びをリードする姿が見られた。

また、運動会後、憧れをもった3・4歳児が、5歳児の遊びを真似たり、5歳児は、3・4歳児の遊びに興味をもったりし、互いに取り入れて遊ぶ姿が見られた。

園外保育でも3歳児と5歳児はペアの友達と一緒に歩いたり、電車に乗ったりする楽しさに繋がった。芋掘り園外保育後は、異年齢交流（わくわくたいむ）の時間を設け、大きな紙にサツマイモの絵を描いた。芋掘りに行ったことの話振り返ったり、他学年が描く絵を見たり、かいたりしながら、多様な表現があることに気付いたり、楽しんだりする姿が見られた。

3学期も、全学年でマラソンや体操をしたり、一緒に遊んだりして、日頃から関わる姿が見られた。生活発表会のオープニングでは継続して行っていた体操し、互いに育ちあう姿を保護者の方に見ていただくことができた。発表会後は、各学年の劇遊びを一緒に行ったり、5歳児が3・4歳児に楽器の使い方を知らせたりし、意図的に遊びの中で、3学年が関わって遊ぶ時間を設けてきたことが互いの興味・関心の高まりにつながった。

年齢での関わりの中で、世話をする喜びや、人の役に立つ喜びを感じたことは、豊かな心の育成につながると考えている。また、幼児の内面理解を深め、援助を工夫することや関わり方を学び合うことが資質向上につながるのだと考えた。

次年度への改善点
<p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもたちの避難時の様子を保護者に伝えると共に、保護者の防災意識を高められるよう今後も工夫していく。今後も、職員が研修を積極的に受け、防災の知識や対応できるスキルを身につけられるようにする。 <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none">・引き続き幼児の実態に応じた年間計画を立案し、計画的に取組・実践し、教職員間で連携を図りながら環境を整えたりして、保育内容の充実を図る。

大阪市立北中道幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」の項目の「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】 就学前教育カリキュラムを活用し、小学校生活への円滑な連携・接続を図っていくように、教育内容の発信を工夫する。 指標 年15回以上、子どもの育ちを発信する。	B
取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】 教職員間で連携を図り、時期やタイミングを捉えて、計画的に保健指導を実施する。 指標 発達段階に応じた保健指導を年10回以上行い、また保護者への発信を年に12回以上工夫して行う。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○ 「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」 ・ ・ 100% ○ 「幼稚園は、子どもや保護者に対して、基本的な生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」・ ・ 100% 【取組内容①】について 年度当初より、遊びを通した子どもたちの育ちについて明確にするとともに、小学校生活とのつながりについて積極的に発信してきた。 就学前教育カリキュラムを活用することで、保育案の作成やドキュメンテーションの作成の際、子どもたちの育ちについて『知・徳・体』の側面から発信することが出来た。 3歳児は、安心感をもって園生活を送ったり、基本的な生活習慣を身に付けたりすること、生き物や友達の大切さなどを知ることが、今後の園生活の基盤になることや、学習意欲につながっていくことを発信してきた。 4歳児は5歳児になるための基盤であることを踏まえて、バランス良く活動に取り組み、自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりすることを身に付けられるような保育内容を工夫してきた。 また、5歳児については、小学校生活へのつながりを意識した保育内容を工夫・検討してきた。子どもの育ちについては、遊びの中で学んでいる子どもの写真を用いる等、保護

者にとって分かりやすくといった点を意識しながらクラスだよりを作成した。ただ配付するだけでなく、月末の保育室降園の際、紹介したりするなどしてきた。アンケート結果より、保護者が幼稚園における子どもの育ちについて理解を深めることにつながったことも見て取れた。

6月には、府立支援学校の先生から、個別援助の仕方や幼児への関わり方などについて、教えていただき、教師の教育的意図をもった働きかけや環境の見直し、教職員間の連携について学ぶ機会となった。

9/2、9/5、北中道小学校の1年生の授業を見せていただいた。主体的・対話的・深い学びとして、自分の思いや考えを発言する児童の姿から、一つの要因として、教師と児童の安心・安全の信頼関係が、学習意欲にもつながるということを学んだ。教師の言葉がけや児童の姿から学んだことを教職員間で共有し、幼児教育の中で引き続き実践していきたいことも明確にし、小学校教育への連携・接続の在り方について考える大きな転機となった。

10/12に行われた運動会には、北中道小学校の校長先生、森之宮小学校の校長先生が来園し、幼児の姿を見ていただける機会を設けた。幼児期は『遊びは学び、学びは遊び』という視点を発信し続けていきたい。

10/31、北中道小学校1年生の国語科の研究授業に教員が参加させていただいた。児童が授業の中で登場人物の心情を読み取ったり、友達の意見を聞いてどう思ったのか発言したりするなど、園生活の遊びの中で培われることと共通する点がたくさんあることが見て取れた。遊びの中で就学を意識した保育内容を見直すきっかけとなった。また、『主体的・対話的・深い学び』が、どのようなものであったか、討議会に参加したことで小学校教育の学びを知る大変よい機会となった。

令和4年3月に文部科学省から『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）』が示されている。5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期とされている。今後、小学校との連携・接続の課題と向き合い、協力体制を図っていきたいと考えている。

11/5、北中道小学校の2年生が、授業の一環として『町探検』で来園した。2年生の児童が5歳児の目線に合わせて質問をしたり、5歳児の声に耳を傾けて、鉛筆で書き込んだりする姿を見ることができた。幼稚園生活では、扱うことのないタブレット端末や、児童一人一つ持っているバインダーや鉛筆などの用具にも興味をもち、小学校生活に期待を膨らませるきっかけとなった。

これまでを振り返り、PDCA サイクルの実践が、子どもの育ちを支えることにつながり、小学校生活への円滑な連携・接続に向けて、子ども一人一人のウェルビーイングにつながると考えている。

2学期も、子どもの育ちや姿をクラスだよりや園長室だより、保育室降園の時間を活用して発信してきた。就学前教育カリキュラムを基にクラスだよりを作成し『知・徳・体』バランス良く育てていることを発信してきたことで、就学を控えている保護者の方々には運動会での取り組みから『体』の部分だけでなく『知』『徳』の部分にも成長があることも知っていただく機会となった。

2/5に行われた生活発表会では、学年ごとの育ちを、保護者の方、地域の方に見ていただき、子どもの育ちを発信する機会になった。取組の中で、日々の降園時やクラスだよりを活用し、子どもたちがどのような活動の中でバランスよく総合的に育まれているのか、発信することができた。保護者の方からは、子どもの自信をもった姿を見て、成長を感じたという声を多く聞くことができ、遊びから学んでいることを知っていただく機会となった。

2/14は、5歳児が北中道小学校に赴き、1年生の授業を見学したり、学校探検をしたり小学校を知る機会となった。

また、幼小連携・接続の一環として、小学校は4月の入学を控え、受け入れる体制を整えたいと、事前準備に余念がない。2/13 小路小学校、2/18 森之宮小学校、2/20 中浜小学校の先生方が来園し、就学する5歳児の姿を見ていただいた。その後、話し合いの中で、就学後も連携・接続して頂きたい旨を伝えたところ賛同いただいた。子どもたちが小学校生活を安心して過ごせるように今一度、文部科学省が掲げる『学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～』（5歳児から2年間）とは何かを考える必要がある。

3学期も月に1度『クラスだより』や『園長室だより』を発行し、降園時を活用して子どもの育ちを発信してきた。『知・徳・体』について保護者の方々にアンケート実施したところ、以下のような結果が見られた。

- ・「クラスだよりや担任からの話で『知・徳・体』について理解することができた」
そう思う（だいたいそう思う）が98%
- ・「遊びの中で子どもたちは様々なことを学んでいることが分かった」
そう思う（だいたいそう思う）が100%
- ・「家庭でも子どもがどのようなことを遊びから学んでいるか、考えるようになった」
そう思う（だいたいそう思う）が98%

保護者の方からは、具体的に「子どもの様子を聞くことができ分かりやすい」という声や、「幼稚園で育まれた力が小学校につながるのではないか」という声を聞くことができた。保護者の方も『知・徳・体』について関心をもち、遊びからの学びが小学校教育につながっていることを知っていただいていることが見て取れた。引き続き、子どもの育ちの発信方法を工夫していく。

【取組内容②】について

- 4月…和式トイレの使い方（4・5歳児）、発育測定を受け方（3歳児）
- 5月…手洗い・うがい（4・5歳児）、歯みがき指導（3歳児）
- 6月…歯の健康、プライベートパーツ（ゾーン）について（5歳児）
- 7月…熱中症予防（3・5歳児）、プライベートパーツ（ゾーン）について（3・4歳児）
- 8・9月…早寝・早起き・朝ごはん 10月…目の健康
- 11月…自分の気持ちを伝えよう、よくかんで食べよう（3・4歳児）
- 12月…感染症予防 1月…排便について 2月…三色食品群
- 3月…成長の喜び（実施予定）

発達段階に応じて毎月保健指導を行った。絵本やパワーポイント教材、手作りの教材を用いることで、子どもたちが興味をもち、内容を理解しやすくなるよう心掛けた。外国につながりの子どもにも分かりやすい視覚教材があることで、楽しんで保健指導を受ける様子が見られた。

3歳児は、5月に昼食を開始して以降、継続して養護教諭が歯みがき指導を行ったことで、楽しく意欲的に歯みがきを行い、みがき方が身についてきている様子が見られた。10月半ばから手洗い場で担任や養護教諭が見守る中で、進んで歯みがきをしている。

4歳児は、いつも話をしている担任ではなく養護教諭が話をすることで、改めて聞く姿勢があり、健康に過ごそうという意識づけにつながっている。保健だよりを配付する際に

は、担任が子どもたちにも内容を分かりやすく話すことで、それを子どもたちからお家の人に伝えることもある。保健指導とリンクした内容であることから、繰り返して話を聞いたり、自分で伝えることを通して、指導内容の定着にもつながると考えられる。

5歳児は、これまでの積み重ねもあり、3・4歳児の時の指導内容を再確認する際、覚えていることを進んで発言する姿が見られ、健康な生活を送るための知識が身につけていることが分かった。6歳臼歯の話をした際には、自分や友だちの歯を確認し合い、自分の体に興味をもっている姿や生えたばかりの大人の歯を大切にしようとする姿が見られた。プール遊びが始まる時期には、自分の体を自分で守れるよう、プライベートパーツの話をした。学校では男女別に着替えることから、5歳児は男女別に着替えを行った。就学に向けて知らせるいい機会となった。

6月には、大阪府歯科衛生士会の歯科衛生士の方に来ていただき、歯みがき指導を行った。むし歯にならないための約束や歯のみがき方を教えていただいた。指導後、「アリさんみがきでみがく！」と進んで歯みがきをする子どもたちの様子が見られ、歯みがきに対する意識が高まったと感じられた。保護者の方にも歯みがき指導の様子を見ていただき、保護者向けに歯科園医による講話を行った。また、『歯と口の健康習慣』には、歯みがきの順番表と歯みがきカレンダーを配付し、家庭と連携して歯みがきの習慣が身につくように働きかけた。夏休み前にも、子どもたちが楽しく取り組めるように工夫して作成した健康カレンダー（歯みがき）を配付し、歯みがきの習慣が継続できるようにした。カレンダーの保護者コメントから、多くの子が進んで歯みがきをしていたことが分かった。今年度、『第63回全日本歯科保健優良校表彰』に応募した結果、歯科保健の取り組みが優良と判断され、優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞した。受賞を受けて、子どもたちの歯みがきへの意欲や歯を大切にしようとする意識がさらに高まっている様子が見られた。

7月に熱中症予防について話をした際には、暑さ指数に興味をもち、保健室前に掲示している暑さ指数を毎朝確認して、友達に知らせ、熱中症に気を付けようとする子どもたちの姿が見られた。2学期も継続して掲示をすることで、子どもたち自身が熱中症予防を意識して生活することができた。

11月には、よくかんで食べることの大切さを伝えた。昼食時30回数えながら「よくかんでたべたらおいしい！」と指導後も継続してよくかんで食べる子どもの姿が見られた。

1月には、排便についての保健指導を実施した。手作りの便の模型を用いて行ったことで子どもたちは興味をもって話を聞いており、指導後も掲示した模型に触れて学ぶ姿や「今日、ばななうんち出たよ！」と教えてくれる子どもの姿が見られた。

2月は、絵本のキャラクターを用いて三色食品群について話をし、バランスのよい食事をとることの大切さを伝えた。3月は、1年の振り返りと成長の喜びについての保健指導を予定している。

今後も子どもたちが自ら健康に過ごそうとする意識をもてるよう、教材や指導方法を工夫して保健指導を実施していく。

保護者啓発として、時期に応じた内容、保健指導の内容や流行中の感染症について掲載した保健だよりを配付日を工夫して14回発行した。月ごとだけでなく、長期休業前に2回、特別号を2回発行し、保護者から、「今必要なことをのせてもらい助かってます」との声があった。

1学期終業式の日には、スライドショーを用いて保護者講話を行い、夏季休業中も規則正しい生活を送ることの大切さを伝えた。

11月の作品展では『保健コーナー』を設け、保健指導で用いた教材や指導内容の展示を行った。

2学期終業式には、スライドショーを用いた2回目の講話を行い、冬に流行する感染症と対策、免疫力を高める方法について知らせた。事後アンケートの結果、「今日の講話から、感染症を予防するための方法がわかった」の項目で「そう思う」と回答した保護者の割合が100%、「今後の生活に生かそうと思った」の項目で「そう思う」と回答した保護者の割合が100%であり、効果的な啓発となった。

また、実施した保健指導について年6回ホームページに掲載し、指導の内容や指導時の子どもの様子を発信したり、降園時に教材を掲示したりした。保護者アンケートでは、『保健指導の内容を得意そうに、「プライベートゾーンって知ってる?」「暑さ指数って知ってる?」と教えてください。』という声があったり、「はやね・はやおき・あさごはん、自分で言って守ってるんです。」など保健指導で学んだことを家庭で話したり、実践しているという声が多数あった。指導したことが身についていっていることや子どもたちへの保健指導を通して、保護者の健康への意識も高まることが感じられた。

指導直後はできていても、指導後時間が経つと意識が薄れている様子も見られることが課題として挙げられる。4月には4・5歳児に向けて和式トイレの使い方を模型を用いて指導し、3歳児に洋式トイレを譲ったり、園外保育で和式トイレが使えるようにした。指導直後は進んで和式トイレを使おうとする姿が見られたが、10月の園外保育の際、和式トイレが使えない様子も見られ、実態把握や担任との連携が不十分であったと感じた。個々の実態把握や担任との連携を密にし、必要に応じた指導を個別に行ったり、再度行ったりすることや保護者への発信として、外出の際に和式トイレを使ってみよう声をかけるなど、家庭啓発も工夫して行うことで、基本的生活習慣を身につけていけるよう働きかけていきたい。

次年度への改善点

【取組内容①】

- ・引き続き『就学前教育カリキュラム』を活用し、学年ごとにねらいをもちながら、小学校生活を見据えた教育発信を工夫する。
- ・今後、保護者アンケートを実施し、結果から読み取れたことをクラスだよりなどを活用して、引き続き発信方法を工夫する。
- ・積極的に小学校に働きかけ、教員同士の学び合いをはじめ、幼児と児童の交流を含めた幼小連携・接続の重要性について発信し続ける。

【取組内容②】

- ・引き続き家庭や担任と連携しながら、実態に合わせた指導、継続した声掛けや指導を行う。

大阪市立北中道幼稚園 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ○ 今年度の本園教職員アンケートの「園内研修が充実していたと思うか」の項目について肯定的に答える教職員の割合を85%以上にする。 ○ 今年度の本園保護者アンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」の割合を85%以上にする。	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 教員の資質向上を目指し、主体的に園内研修に取り組む。 ----- 指標 園内研究年間計画に基づいて、年5回以上園内研究を行う。	B
取組内容②【基本的な方向9 家庭・地域と連携・協同した教育の推進】 地域に開かれた幼稚園を目指し、教育内容の発信を工夫する。 ----- 指標 年間20回以上HPなどで、教育内容を発信する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
○ 「園内研修が充実していたと思うか」・・・90% ○ 「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」・・・95% 【取組内容①】について 園内研修は6月5歳児、11月4歳児、12月3歳児、2月に養護教諭による園内研修を行った。7月、12月に養護教諭による教職員への保健指導、幼児が園内でケガ等をした場合の対応の仕方を養護教諭がフローチャートとして図に表し、園全体で対応の在り方の共通理解を図る機会をもつことができた。 大阪市総合教育センター指導員の先生にお越しいただき9月、11月、1月に園内研修を行った。第2ブロックの研究部の主題をもとに、自分の思いを表現する楽しさを表すために、かいたりつくったりする機会をどのように捉えていくのかを学んだ。作品展に向けての活動も、素材研究の学びの場とし、幼児の作品ができていく過程や作品に対する読み取り、年齢ごとの発達の違いなどについて意見を述べ合ったり、学んだりすることができた。また、実践記録を読み解くことで、教師の教育的意図をもった働きかけや、環境構成について意見を出し合った。研究部会での研修に持ち寄る幼児の作品を選ぶ際、実際に幼児がつくった作品を職員で見取った。幼児の思いや工夫をした所などについて読み取り、話し合うことで、幼児がかいたり、つくったりすることの楽しさを味わえるための環境の工夫や援助の在り方について学ぶことができた。 園内研修では、保育の振り返りのために保育の様子をビデオ撮影し、ワークショップ形式で職員同士で意見を出し合い、幼児の実態把握に努めた。ビデオ撮影をすることで、保

育を行った教師が俯瞰して幼児の姿を見ることができ、新たな気付きとなり、保育内容や環境を見直す機会となった。2/15に他園の造形研修に参加し、製作活動への取り組み方や教材の用い方を学んだ。2/25に絵画研修に参加し、幼児の発達段階の育ちや絵の読み取りなどを学んだ。

教職員が様々な研修に参加した後は、資料を回覧するだけでなく、翌日の職員朝礼の際に資料を基に研修の内容を伝達するようにしている。幼児理解に大切な内容や、安全安心に関する様々な内容を園全体で共通理解した。

特別支援教育に関しては、地域の支援学校等の関係諸機関の先生方にご指導いただき、支援の在り方や、幼児の特性について、また、今後の取組について学ぶ機会となった。

8月には地域の『絵本の会ピーターラビット』のメンバーの方々に来園いただき、絵本研修会を行った。絵本のもつ魅力や読み聞かせの仕方、作者についてなどを教えていただくことで、絵本読み聞かせの大切さについて改めて学ぶことができた。

【取組内容②】について

高齢者施設ハミングベルへの訪問…6/13・7/4・12/6・3/10

幼稚園での取り組み内容をHPに挙げたり、5歳児が地域の高齢者総合福祉施設『ハミングベル』を訪問し、園で収穫したビワを施設職員の方々に届けたり、歌を披露したりする機会をもった。また、7月には七夕の笹飾り、12月には園で作成した日めくりカレンダーを届け、季節の歌を歌う機会をもち、心温まる交流をもつことができた。地域の方との交流を通して、歌や手紙を喜んでくださる高齢者の方々見て、幼児も嬉しい気持ちになり、互いを大切にする気持ちをもつことができた。その内容を保護者に向けて知らせたり、クラスだよりなどに掲載したりすることで、教育内容を伝える機会にもなった。

6月に親子和太鼓演奏会を行った。地域の和太鼓クラブ『飛童』の皆さんが力強い演奏をしてくださり、実際に園児が太鼓に触れる機会をもつ機会があった。約10年前から続いている活動である。和太鼓演奏会をきっかけに和太鼓クラブに入部する子もいて、毎年行っている活動が、地域と幼稚園とをつなぐ役割も担っている。園児たちも6月に太鼓演奏を聴いたことから、遊びの中で太鼓に取り組み、10月の運動会ではもりのこ囃子を大勢の観客の前で披露し、自信につながった。12月には園行事に地域の方が参加くださり、夢ある楽しい時間を共に過ごすことができた。2月に幼小地域とでクリーンアップ作戦を行い、自分達が過ごす地域をきれいにする気持ちよさや、小学生や地域の方々との触れ合いを通して地域とのつながりを感じる活動となった。

未就園児園庭開放を行い、園児と未就園児が一緒に遊ぶ機会を毎週月曜日に設定している。今年度から地域の方による絵本の読み聞かせ『絵本の会ピーターラビット』の方と連携を図り、未就園児園庭開放の際にも、絵本の読み聞かせをしていただいている。幼稚園で取り組んでいる地域との関わりや幼稚園の教育内容を未就園児保護者の方にも知っていただく機会となっている。絵本の読み聞かせを楽しみに来園する未就園児親子もいる。また、週1回、在園児に向け絵本の読み聞かせも行ってくださり、幼児も楽しみにしている時間である。絵本の会で読んでくださった本や、活動の様子をクラスだよりや、HPにあげることで、保護者の方にも知らせるようにした。幼児も、地域の方々に親しみをもち、様々な人に関わることで、心の育ちへつながった。

次年度への改善点
<p>【取組内容①】</p> <ul style="list-style-type: none">・次年度も幼児の実態を把握しながら、教職員の資質向上に向けた園内研修を計画的に行っていく。・日頃の保育を行う際にも、教材研究をすることの大切さを感じている。教職員で得た知識や教材の使い方などを知らせたり、教え合ったりすることで、教員の知識や質の向上を図る。 <p>【取組内容②】</p> <ul style="list-style-type: none">・今後も、地域の方々が関心をもち、本園に来園いただくことを目指し積極的にＨＰなどで園の様子を知らせていく。

令和6年度 学校関係者評価報告書

大阪市立北中道幼稚園

学校協議会

1 総括についての評価

本年度、幼稚園の自己評価結果は妥当である。『保護者アンケート』からも見て取れるが、各視点の年度目標に対する達成状況の自己評価と取組内容の達成状況においても、目標を上回って達成しており評価できる。引き続き、教育内容の充実と発信に努めていただきたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

- ① 今年度のアンケート調査で、「幼稚園は、子どもたちが安全に過ごそうとする意識がもてるような取り組みをしていますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、85%以上にする。
- ② 今年度のアンケート調査で、「子どもは幼稚園に行くことを喜んでいますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、85%以上にする。
- ③ 今年度のアンケート調査で「子どもは教師や友達との関わりを楽しんでいますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、85%以上にする。

○①の項目について100% ②の項目について97% ③の項目について100%「そう思う（だいたいそう思う）」の割合が高く保護者アンケートやコメントからも読み取れる。月1回の避難訓練(抜き打ち避難訓練含む)、年2回の保護者合同園児引き取り訓練を実施してきたことが子どものみならず保護者の防災意識を高めることにも繋がった。教職員間連携についても確認し合えることができた。今年度も異年齢交流(わくわくたいむ)について教育内容を工夫してきた。肯定的回答が高くなった要因と言える。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

- ① 本年度のアンケート調査で「幼稚園は家庭に向けて子どもたちの育ちを分かりやすく知らせていますか」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、85%以上にする。
- ② 本年度のアンケート調査で「幼稚園は、子どもや保護者に対して基本的生活習慣が身につくように、分かりやすく伝えていきますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を85%以上にする。

○①の項目について100% ②の項目について100% 「そう思う（だいたいそう思う）」の割合が高く保護者アンケートやコメントからも読み取れる。『園長室だより』『クラスだより』など子どもの育ちをドキュメンテーション形式で発信したことや、健康生活に関しても、『ほけんだより』や保健指導を通して家庭啓発してきたことなどを積み重ねてきた。肯定的回答が高くなった要因と言える。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

- ① 本年度のアンケート調査で「園内研修が充実していたと思うか(教職員アンケート)」の項目について、「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を、85%以上にする。
- ② 本年度のアンケート調査で「幼稚園は地域に向けて教育内容を分かりやすく発信していますか」の項目について「そう思う（だいたいそう思う）」と回答する保護者の割合を85%以上にする。

○①の項目について90% ②の項目について95% 「そう思う（だいたいそう思う）」の割合が高く保護者アンケートやコメントからも読み取れる。教員の資質向上に向けて、園内研究保育の場を設け、教職員が互いに見合い研鑽を積むことが大切であると考え。地域に向けての教育内容の発信についても、高齢者施設への訪問、和太鼓交流など地域の方々との連携を積み重ねてきた。肯定的回答が高くなった要因と言える。

3 今後の学校運営についての意見

- 学校協議会の報告を受けて、異年齢交流『わくわくたいむ』の活動がとても重要であることを感じる。幼稚園教育活動の中で様々な人との関わりを大切にし、自分より年下の友達をいたわり、優しい気持ちで関わっていることを先生方から伺い嬉しく思う。自己肯定感や自己有用感が高まることも理解できた。これからは異年齢交流を続けてほしいと願っている。
- 北中道幼稚園は地域とのつながりも深く、地域行事なども多いが、子育ては親だけでできるものではないと日々感じている。地域の方々や幼稚園の先生方と一緒に子どもたちを育てることが大切だと感じる。一人一人を大切にしていることとてもありがたい。
- 幼稚園で育まれた力を小学校でも引き継いでいくとともに、幼小連携・接続について進めていきたい。
- 高齢者施設との交流では、お年寄りの方々も昔、父親であったり、母親であったりという立場であられたこともあり、小さな子どもたちと触れ合うなかで「守る」という意識が高まり覚醒度が上がると言われている。引き続き交流をしていただきたい。